

平成28年度 相馬市公立学校研究指導員会資料

互いに学び合う活動を通して、 基礎的・汎用的能力を育む

～キャリア教育の視点を生かした授業実践事例集～



【監修】

相馬市教育委員会教育長	堀川 利夫
相馬市教育委員会学校教育課長	渡邊 義人
相馬市教育委員会学校教育課 主幹兼指導主事	小関 洋
相馬市教育委員会学校教育課 課長補佐兼指導主事	志賀 拓広
相馬市教育研究実践センター所長	山下 富夫

相馬市教育委員会

【編集委員】

相馬市立桜丘小学校	校長	村田 権一
相馬市立飯豊小学校	教頭	青田 祥一
相馬市立大野小学校	教諭	伏見 哲也
相馬市立八幡小学校	教諭	武澤 裕二
相馬市立中村第一小学校	教諭	屋仲 幸治
相馬市立中村第二小学校	教諭	稲葉 綾
相馬市立桜丘小学校	教諭	青田 雅子
相馬市立日立木小学校	教諭	高橋 尚幸
相馬市立中村第一中学校	教諭	寶 伸一
相馬市立中村第二中学校	教諭	五十嵐 元江
相馬市立磯部中学校	教諭	千葉 正俊

あ い さ つ

本会では平成29年度の研究内容を「キャリア教育」とし、研究テーマを「互いに学び合う活動を通して、基礎的・汎用的能力を育む」として研究・実践に取り組んで参りました。キャリア教育において基礎的・汎用的能力を育むことは、改訂される学習指導要領で取り上げられる「アクティブ・ラーニング」にも繋がるものであり、さらには「自己肯定感」「自己理解・他者理解」「主体的に学ぶ態度」「学び合いの力」等も育むことができると考えました。

特に私たちの研究・実践では「互いに学び合う」ことを通して、自己との対話を重ねつつ他者と相互に関わりながら、自分の考えや集団の考えを発展させて主体的に学び続けること、更には他者との関わりを通して、児童・生徒の社会性や人間性を高めていくことを大きなねらいとしました。

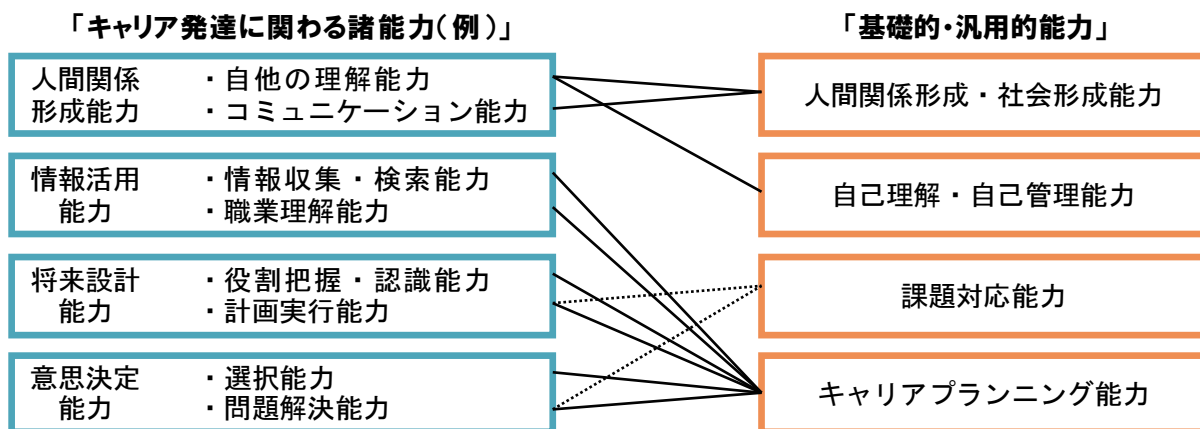
そこで「キャリア教育」を特別なものとしてとらえるのではなく、日常の教科等の指導に「キャリア教育の視点」をもって取り組むことが研究・実践の第一歩であると考え、「互いに学び合う」ための授業づくりのポイントを以下の4点として研究・実践を進めました。

- ① 子どもが本気で考えたい学習問題の設定
- ② 個を育てる、個人学習の充実(個の考えを整理し関連づけることができる力の向上)
- ③ 学び合いの素地づくり(自分を遠慮なく出せる学級づくり、発表力・発言する力の向上)
- ④ 言語活動の適切な位置付け

この度、上記のポイントを中心に各研究指導員が実践した結果をリーフレットの形にまとめました。この中に、平成18年度に文部科学省から出された「キャリア発達に関わる諸能力(例)」についても示してありますが、これは下図から分かるように「基礎的・汎用的能力」と「キャリア発達に関わる諸能力(例)」は全く別のものでなく、相互に関連しているものと捉えているためです。

この実践記録としてのリーフレットが先生方の日々の授業や教育活動に役立つと共に、相馬市の子供たちが現在の自分を客観的に振り返り、キャリアプランニング能力を高めるための一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、私たちが研究・実践をすすめる上で貴重なご指導・ご助言を頂きました相馬市教育委員会教育長様はじめ教育委員会事務局、相馬市教育実践センターの皆様、各校長先生方、関係各位に心より感謝申し上げます。



平成29年2月
相馬市公立学校研究指導員会会長 村田 権一

小学校第6学年 総合的な学習の時間「働くってどんなこと？」の実践

飯豊小学校 青田 祥一

授業テーマ

児童の身近で働く人をゲストティーチャーに迎えた授業を行い、様々な職業があることに気付かせるとともに、「働く」ことの意義や近い将来を考えさせることで「キャリアプランニング能力」を育む授業

現在の日本では経済のグローバル化が進展し、コスト削減や経営の合理化が進む中、終身雇用の形態が変化し、求人の著しい減少、求職と求人の不適合が拡大している。また、若者の勤労観、職業観の未熟さ、職業人としての基礎的資質・能力の低下も指摘されている。この様な背景を受け、文部科学省は「キャリア教育」の小学校段階からの組織的・系統的なキャリア教育の推進の必要性を謳っている。

本授業は中学進学を目前に控え、今後の自分の進路について考え始めるこの時期に、実際に働いている身近な大人から話を聞くことで児童の「勤労観」「職業観」を高め、キャリアプランニング能力を身に付けさせようとするものである。また、授業参観の機会を利用することで、保護者にもその重要性を知らせることができると考える。

1 本授業で目指す「キャリアプランニング能力」

- 仕事をするものの価値や重要性に気づき、やり甲斐を持って仕事をしようとする態度を育てるとともに、近い将来をイメージすることができる。(将来設計能力・計画実行能力)
- 社会には様々な職業があり、それぞれの職業が社会にとって重要な役割をもっていることを知ることができる。(情報活用能力・職業理解能力)

2 「キャリアプランニング能力」を伸ばすための手立て

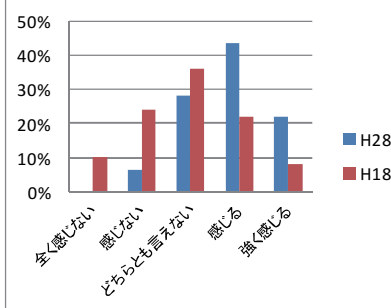
- 児童の保護者や身近な人物をゲストティーチャーとして授業に取り入れることで、働くことを身近に感じ取らせ、仕事や職業に対する関心を高める。
- 児童・保護者を対象としたアンケート調査や、未来の履歴書づくりの活動を通して、進学や職業選択をする近い未来をイメージさせる。
- 本授業に保護者も関わらせることで、キャリア教育への家庭の関心を高める。

3 実践の結果

- 授業にはゲストティーチャー6名を招聘した。招聘した方々は【市議会議員(議長)・市役所職員・消防士・会社員(自動車販売)・会社員(元美容師)・教員(担任)】である。事前に行った児童アンケートを資料として提示し、「働く」ことの意味について児童に考えさせた。「お金のため」という意見もあったが「楽しさ」「やりがい」について感じ取っている児童が多かった。
- どのゲストティーチャーも「仕事にはつらいことがあるが、楽しいしやり甲斐もある」や「自分のやりたいこと、得意なことを生かす仕事に就いた」等、児童の将来に夢やイメージがもてるようなコメントをしていただいた。授業後の児童の感想には「参考になった」という意見が多く見られた。
- 授業者は、本授業と同内容の授業を10年前の同校同学年を対象に行っている。震災を挟み、保護者アンケートではいくつかの変化が見られたが、最も大きな変化が見られたのは「小学校でキャリア教育を行う必要性を感じる」であった。
- 参観した保護者からは「小学生・中学生、それぞれの時期で、今できることを、精一杯行う姿勢が大切だと感じた。」というご意見が寄せられた。
- 今回の授業のようにキャリア教育に特化した授業でなくとも、小学校における「勤労観」の育成は低学年から、常に学校教育全体を通して行われている。あとは、実践する我々教師が、「どれだけキャリア教育を意識するか」なのではないかと強く感じた。今後、キャリア教育を実施する上で、学校が取り組まねばならないことを以下に6点提言したい。



小学校でキャリア教育を行う必要性は?



- ① 児童に夢を持たせる教育をしていかなければならない。
- ② 児童に「負荷」と「達成感」を与える学習をしていかなければならない。
- ③ 児童に具体的な体験を通して、社会を見つめる目を育てなければならぬ。
- ④ 保護者に児童と将来について語る機会をもたせなければならぬ。
- ⑤ 学校と地域との連携体制を築かなければならぬ。
- ⑥ 教師は全教育活動を通じて「キャリア教育」の概念を意識しなければならぬ。

小学校第6学年 総合的な学習の時間

「防災教育－これからの相馬の防災について考えよう」の実践

大野小学校 伏見 哲矢

授業テーマ

相馬市（大野地区）の良さを知るとともに、過去に起こった災害に気付き、自分たちができる防災について『十分』『不十分』『安心』『不安』などの視点のもと追求していくことで「課題対応能力」を育む授業

1 本授業で目指す「キャリアプランニング能力」

- 本題材は、防災教育をテーマとした。防災を学ぶことは、千年に一度という大震災を経験した児童にとっては、避けられない課題である。震災の実状や相馬市（大野地区）での対策、復興までの道のりを調べ、まとめていく中で『十分』『不十分』『安心』『不安』などの視点で吟味し、それぞれの考えを深く受け止めることに良い自分たちができる取り組み、「課題対応能力」を高めていくことができる。

2 「キャリアプランニング能力」を伸ばす手立て

- 目標や育てたい力を明確にした単元構想と指導計画の作成
- 子どもの気付きや学びの質を高めるための教材の開発
- 子どもの見取りを生かした学び合いや伝え合いのある授業展開や指導の工夫

3 実践の結果

- 学習を進める中で相馬市の良さと課題を捉えた。
 - ㊦自然が豊かで食べ物がおいしい。（山、海、川、田畑、果樹園）
 - ㊧自然災害に遭いやすい。（地震、津波、暴風、豪雨、洪水、高潮、地すべり、土石流）
- 子供たちが追求した災害（3グループ）
Aグループ 地震・津波 Bグループ 大雨・土砂災害 Cグループ 原子力・風評被害

○ 調査活動の様子

Aグループ【備えの大切さ】



Bグループ【理科との関連】



Cグループ【食材の安全調査】



- 活動を通して互いに吟味しながら「さらにできること」を追究した。

- －自分たちができること－
 - ・ハザードマップ作り
（学区の危険箇所・放射線量の測定）
 - ・災害についての備えと安全な避難のよびかけ
（保護者・全校生）
 - ・ポスターやパンフレットによる食の安全のPR



【ハザードマップによる呼びかけ】

○ 考察

子供たちが関心を持った災害について追求する中で、「十分・不十分」「安心・不安」の視点で互いに意見をぶつけながら吟味し合った。そのことが自分たちができる取り組みはどんなことがあるのだろうと真剣に考えることへとつながった。次のステップを見いだそうとする姿から『課題対応能力』を育むことができたと考えられる。子供たちの感想から「防災に真剣に取り組めて良かった。」

「今後も自分達にできることを考えたい。」の意見が多数見られた。今後も継続した実践を続けたいと考える。

小学校第6学年 体育科「マット運動」の実践

八幡小学校 武澤 裕二

授業テーマ

自分の習得したい技や練習の場を選択するとともに、友達と協力したり、ICT機器を活用したりして、進んで運動に取り組みせることで「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」を育む授業

体育で「体を動かすことは大好き」だが、鉄棒・跳び箱・マット運動などの「器械運動は好きではない」という児童は結構多い。理由としては、「怖い・痛い・できない」などが挙げられる。

小学校で学習するマット運動の技を1つでも多く習得させるとともに、友達と協力して一つのことを成し遂げた時の喜びや達成感を味わわせたいと考え、体育科において次のような指導計画を立てた。この実践は、キャリア教育の「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」を育もうとするものである。

1 本授業で目指す「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」

- 自分が現在「できる技」は何なのか。また、「できるようになりたい技」は何なのかを理解し、技ができるようになるためには、どんな練習が必要かを知ることができる。
- 協力して練習に取り組んだり、互いにアドバイスをしたりするなど積極的に運動に取り組むことができる。

2 「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」を伸ばすための手立て

- 「やってみたい場」「易しい場」「抵抗感を取り除く場」「発展的な技に挑戦する場」などの場を設定することで、進んで運動に取り組みせる。
- 単元の終末に集団演技を発表する場を設定することで、互いに協力して練習するとともにやり終えた時の達成感や充実感を味わえるようにする。

3 実践の結果

- 45分授業の前半を「パワーアップタイム」とし、技をより美しくできるようにしたり、もう少しできそうな技に取り組ませたりすることで基礎的な感覚や基本の動きを身に付けられるようにした。下り坂や段差、ゴム紐、フラフープなどの場を設定することで回転の速度を上げたり、より遠くへ手を付いたりする手立てとなった。また、自分の現段階での力量に合わせた場を選択することができるので、どのレベルの児童も進んで運動に取り組むことができた。
- 授業の後半を「シンクロタイム」として、できない技に挑戦させたり、グループで技を揃えたりする場を設けた。教師がiPadで撮影した動画を児童に見せると、「この技は動きが揃ってるね」「技の終わりをもっと合わせよう」などと話し合う様子が見られた。
- 使用したアプリは、「見ん者（みんじゃ）」である。撮影した動画を何秒後かに遅らせて自動で再生させたり、お手本となる技と自分の動きを並べて再生し、比べたりすることに活用した。
- 児童は、グループの友達と動きが揃うように何度も練習し、体育の授業のほかに休み時間も練習を行った。最後の発表を終えた時、児童はやりきったという満足感に満ち溢れた様子であった。



ゴム紐を使っでの側方倒立回転



段差を利用しての前転・後転



フラフープを使っでの跳び前転



集団演技発表会

小学校第3学年 国語科「ディベートゲームをしよう」の実践

中村第一小学校 屋仲 幸治

授業テーマ

ディベートゲームでチームが勝つために、自分の役割を理解しながら仲間と協力して作戦を練り、進んで学習に取り組む中で、自己の成長を自覚し「自己理解・自己管理能力」を育む授業

本単元は国語科「話す・聞く」の領域として位置付けたものである。本来であれば「伝えよう、楽しい学校生活」という教科書の単元を学習する計画であったが、以下の理由から本単元に変更した。

- ① より子供たちの興味・関心を高め、学習意欲を引き出せる教材であること
- ② チーム単位での学習となるため、個人の役割や責任が明確となり、チームで協力する必要があること。
- ③ 話し合う楽しさを感じさせることにより、次の対話的な学びの契機とすること。

1 本授業で目指す「自己理解・自己管理能力」

- チームの勝利のために自己の役割を理解し、主体的に調べ学習を行うことができる。
- 学習を終えた後の振り返りを通して、自らの話す力の伸びを理解することができる。
- 仲間と協力したり、折り合いを付けたりしながら話し合いの作戦を練ることができる。

2 「自己理解・自己管理能力」を伸ばすための手立て

- 発表が終わった後には、話している時の視線、声の大きさ、聞き手に投げかける言葉が使えたかという視点で自己評価をさせる。
- 単元末にはアンケートを実施し、この単元で成長した点は何かを書かせることで、自己の成長を自覚させる。



3 実践の結果



- この学習を始めると、休み時間も夢中になって準備に取り掛かる児童も見られるようになってきた。また、ゲームで負けたチームの中には悔しくて泣きだす子も現れ、本気になって学習に取り組んでいる様子が見られた。
- 準備の段階では、チームの仲間と活発に話し合いながら準備を進めていた。また、自然とリーダー的存在も現れ、チームで役割分担を決めて学習を進めていた。また、苦手の児童や準備が進まない児童には優しく助言していた。
- 休み時間に自主的に集まって話し合う姿が見られた。話すことに対する興味・関心が高まってきた。
- 単元終了後、子供たちに以下のアンケートを実施した。
 - ① ディベートの学習は楽しかったですか？
とても…16人 楽しかった…11人 あまり…1人 全然…0人
 - ② ディベートを学習してから、前より話すことが上手になってきたと思いますか？
思う…7人 少し…15人 あまり…4人 全然…2人
 - ③ その他に自分が成長できたと思う所はありますか？（記述式）
「人前で話すことが好きになった」、「自分の考えが持てるようになった」、「手を挙げるが多くなった」等の記述が見られた。
- この結果から多くの子供たちがディベートの学習を楽しみ、自分の成長を実感できたことが分かる。しかし、一方で楽しめなかった子や成長を実感できなかった子もいた。そのような子には、教師側がわずかでも個人内の伸びを見取り、具体的にフィードバックしていくことが大切だと改めて実感した。

小学校第5学年 外国語活動「好きなものを伝えよう」の実践

中村第二小学校 稲葉 綾

授業テーマ

実生活の場面を想定した必然性のあるコミュニケーション活動を行い、相互に関わり合うよさを実感させ、自他の理解能力を高めることにより、「人間関係形成・社会形成能力」を育むことができる授業

本学級の児童は、外国語活動の時間を好み意欲的に取り組んでいるが、語彙や表現への慣れ親しみを目的とした基礎的活動であるゲーム活動のみを楽しみにしている傾向が強い。また、1対1のコミュニケーション活動では、一方的に自分の思いを伝えることだけが優先され、外国語活動で重視したい「他者とコミュニケーションを図る大切さを体験しながら相互理解を深める」までには至っていない。

そこで、本単元の「Do you like~? I like~.」の表現を用いて、児童が「話したい・聞きたい」と感じる必然性のある知的好奇心を満たすコミュニケーション活動を設定し、自己理解・他者理解を促すとともに、言葉を通して人と関わり合う楽しさやよさを実感させていきたいと考えた。多様な他者との関わりが重要とされる社会において、他者と主体的に関わり合いながら、相互に理解し、よさを認め合う態度の育成が「人間関係形成・社会形成能力」につながると捉え実践を行った。

「This is Me」カード

カードの最後の表現には、自分だけの Special な情報（趣味など）を入れておく。

1 本授業で目指す「人間関係形成・社会形成能力」

- 他者に自ら働きかけながら、自己の思いや考えを的確に表現することができる。
- コミュニケーション活動を通して、自他のよさを理解し尊重しようとする。

2 「人間関係形成・社会形成能力」を伸ばすための手立て

- 自己紹介カードを集めて「5-2プロフィールブック」を作り、互いを理解し合うという単元のゴールを設定することにより、児童に活動の見通しや目的意識を持たせていく。
- 「買い物」という実生活を仮定したコミュニケーションの場面を単元末に設定することにより、活動への興味関心を高める。また、慣れ親しんだ表現を繰り返し使い「伝えたい情報・知りたい情報」をやりとりしながら、自己紹介カード（This is Me.カード）が完成できるようにする。
- 自己紹介カードを用いて、誰のカードかを予想しながら当てる「Who am I? ゲーム（私は誰でしょう）」を行うことにより、相互理解を促し、より豊かな人間関係作りにつなげる。

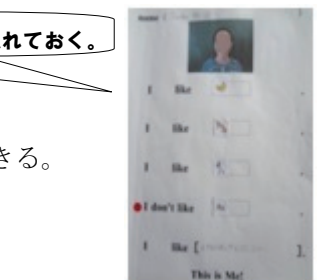
店員：Hello. Do you like apple?
Here you are.

客：Hello. Yes, I do.
This one, please. Thank you.

3 実践の結果

- 店員と客に分かれ、尋ね合いをして4つのブースから（フルーツショップ・スイーツショップ・スポーツアクティビティ・ペットショップ）自分の好きなものや嫌いなものの絵カードを集める活動は、小道具を用いて場の設定を工夫したことで児童の興味関心が高まり、主体性を引き出すことができた。また、実際の場面で使える発展的な表現を取り入れさせたことで臨場感が加わり、毎時間記入している振り返りカードには「将来、外国で買い物ができそう。」という感想も見られた。主体的に関わるよさや、単元を通じた自己の成長が実感できていた児童が多かった。
- 1グループ4人で店員役を行ったが、客役とのやりとりに戸惑い消極的になる児童もいた。客への対応を順番性にするなど活動のルールを徹底するとともに、苦手意識につながらないように、他者への関わりに対して自信につながる声かけが必要であった。
- 「Who am I? ゲーム」では、相手を予想しながらクイズを楽しみ、友達の新たな一面を知り驚いたり、当ててもらい安心した表情を見せたりしていた。成後も手に取り楽しむ様子から、互いの思いや願いを共有し合う喜びが実感できていると感じた。
- 児童同士が伝え合う情報を児童にとって価値のあるものとし、更に情報を受け渡す場面を「思考が働くコミュニケーション活動」となるよう工夫することにより、自己を積極的に表現しながら他者を理解し尊重する態度を育むことができると考える。今後、2年間を見通し計画的に位置づけ積み重ねていきたい。

〇〇さんは、～が好きなんだね。意外だね。



小学校第2学年 音楽科「いろいろな音を楽しもう」の実践

桜丘小学校 青田 雅子

授業テーマ

様々な打楽器の音を知り、いろいろな音の中から好きな音をさがし、自分の好きな音を交流させることで、「人間関係形成・社会形成能力」を育むことができる授業

音楽科の授業において、「思いや意図」を深めるためにも言語活動を取り入れた授業を展開していく中で、友達の考えを認めたり、自分の考えを分かってもらったりする場を設けていく。そのためには、学級の中で何でも話し合える、認め合える雰囲気が大切である。「教えてくれてありがとう」「分かってくれてありがとう」という心の交流が、人間関係形成・社会形成能力につながっていくと考えられる。

1 本授業で目指す「人間関係形成・社会形成能力」

- 「うんうん」と頷いたり、相手を見てやさしい気持ちで話を聞こうとしたりすることができる。
- 「ここまでのいい？」やさしい言葉を使って聞き手に分かりやすく話そうとすることができる。
- 「〇〇君の言いたいこと分かるよ」「〇〇さんの考えもいいね」など、友達の考えに共感したり、認めたりすることができる。

2 「人間関係形成・社会形成能力」を伸ばすための手立て

- 相手を見てやさしい気持ちで話を聞こうとする子ども、やさしい言葉を使って聞き手に分かりやすく話そうとする子どもの姿が見られた際の積極的な称賛。
- 「どうしてそう思ったの？」と理由を引き出す教師の問い返し。
- 「〇〇さんの気持ち、分かる？」と他の子どもに聞いて、考えさせることにより、友達の考えの共有化。

3 実践の結果

- 楽器当てクイズを行ったり、本時の鑑賞曲「打楽器パーティー」の題名を紹介し、どんな曲か想像させたりすることにより、鑑賞への意欲を高めた。また、鑑賞後は曲に登場した楽器を確かめると共に、曲を聴いた感想も発表させた。その際、頷きながら話を聞いたり、「パーティー」という題名と鑑賞を結び付けて聴いていたり、「あ、同じ!」とつぶやいた子どもに「今、同じって言ったけどもう一回言ってみて」と再生させたりすることにより、子どもの考えを広げた。



- 本時は「自分の好きな音をさがすことができる」という目標だった。そこで、教室に打楽器の体験コーナーを用意し、子どもたちが実際に音を出して確かめることができるようにした。音を出して探し始めた子どもたちは、「打つ場所によって音が違うよ」「あ、この音きれい!」「学校のチャイムみたいな音だな」など友達と話をしながら、好きな音を見つけることができた。

- 「好きな音紹介」の場面では、子どもが好きな音を発表したときに、「どうして好きなのか」と理由を聞くことにより、楽器の特徴や音色を押さえることができるようにした。すると、K男が「トライアングルの音が違う」と発言した。教師が、「違うってどういうこと?」と問い返すと、実際にトライアングルの持ち手の部分と三角形の底辺の部分の部分を指さしたが、言葉が続かなくて止まってしまった。そこで教師が「K君の気持ち、分かるかな」と他の子どもに聞いたところ、Y子が手を挙げた。



- 「K男君は、上の方が高くてきれいな音で、下の方が響く音がするって言いたかったんだと思う（うつ場所によって音が違う）」とつなげた。K男が「そう!」とにっこりして、頷く姿が見られた。
- 今回の授業を終えて、実際に自分が感じたことや発見したことを「言葉」として伝えることが「人間関係形成・社会形成能力」を育むために重要だと感じた。言葉足らずでも伝えようとする意欲、相手の思いをくみ取ろうとする心につながると改めて思った。

小学校第6学年 国語科「時代の特徴を伝えるパンフレットを作ろう」の実践

日立木小学校 高橋 尚幸

授業テーマ

国語科で学習する「パンフレットの書き方」と社会科の学習を結び付けることによって、主体的・協働的な学習を実現し、「課題対応能力」を育む授業

本実践では、「目標の明確化」と「繰り返しのある学習」の2点を重視している。これらによって、児童が見通しを持って主体的に学習を進めたり、教員の細かい指示や発問がなくても友達と相談したりする「主体的・対話的で深い学び」が可能になると考えたからである。

また、上記2点を具体化するために、国語科で学習する「書き方」と、社会科で学習する「調べ方」を組み合わせた教科横断型の単元構成に取り組んだ。それによって、主体的に調べ、主体的に書く活動を展開し、課題対応能力を身に付けさせようとするものである。

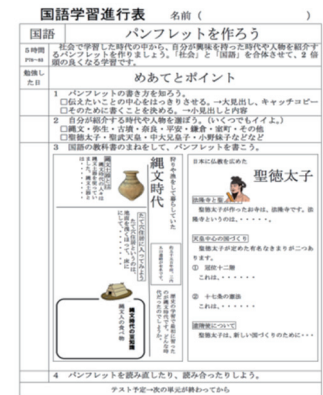
1 本授業で目指す「課題対応能力」

- 最後にどんなパンフレットを作れば良いのかという見通しを持ち、そのために必要な情報は何かを思索しながら、主体的・対話的に取材活動（調べ学習）に取り組むことができる。
- 前回の反省点を生かしたり、よりよい物を書くために必要なことは何かを話し合ったりすることによって、考えを深めながら書く活動に取り組むことができる。

2 「課題対応能力」を伸ばすための手立て

- 見通しを持てるように、単元の計画とパンフレットの例を示す。
- 複数回繰り返し返して書けるように、全13時間の単元を下表のように分割して実施する。

<p>7月：書き方を知る（7時間）</p> <p>① パンフレットの書き方を知る。…2時間</p> <p>② 社会科の学習内容を生かし、「各時代の特徴を伝えるパンフレット」を書く。…4時間</p> <p>③ お互いのパンフレットを読み合う…1時間</p>	1回目のパンフレット作成
<p>7～11月：繰り返し書く（6時間）</p> <p>① 7月社会科「江戸幕府と政治の安定」のまとめ…2時間</p> <p>② 9月社会科「町人の文化と新しい学問」のまとめ…2時間</p> <p>③ 10月社会科「明治の国づくりを進めた人々」のまとめ…2時間</p>	2～4回目のパンフレット作成

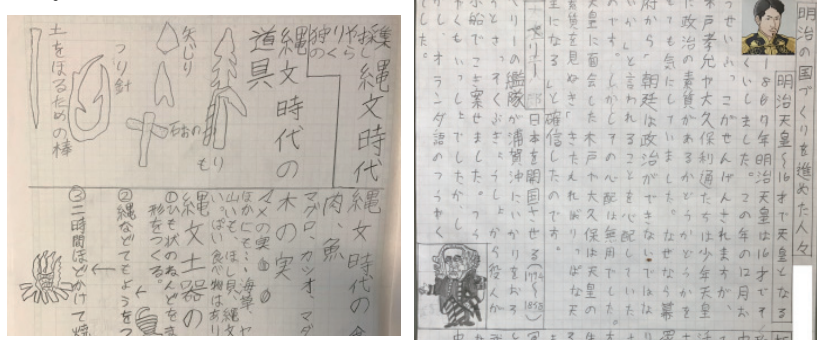


単元の計画とパンフレットの例示

3 実践の結果

- 7月に、国語科教科書に載っている「自分の町を紹介するパンフレット」の書き方をもとにして、「社会で学習した時代の特徴を伝えるパンフレット」を書いた。「社会でたくさん学習しているから、書きやすい。」という児童が多かったものの、一部の児童からは「どう書いて良いか分からない。」という声もあった。
- その後、社会科の単元のまとめとして「江戸幕府について紹介するパンフレット」を書いた。2回目ということもあり、1回目と比べスラスラと書ける児童が増えた。（ただし、冊子形式ではなく、1枚だけの簡易的なパンフレットとした。）
- その後もパンフレット作成を合計で4回繰り返したことにより、児童はしっかりと見通しを持って学習できた。社会の時間に「これは重要だからパンフレットに書こう。」「パンフレットに書く人物は誰にすればいいかな。」と相談しながら、主体的・対話的に調べ学習に取り組むことができるようになった。

- 最初は書き方がよく分からないと言っていた児童が、繰り返し書く中で書き方を身に付け、小見出しやキャッチコピー等を工夫して意欲的に書けるようになった。
- 「取材」活動を社会の授業で行っているため、国語の時間に余裕が生まれる。その時間を生かして2回目以降のパンフレットを書いたため、無理なく実践できた。



1回目のパンフレット → 4回目のパンフレット
キャッチコピーや工夫した小見出しを付けられる児童が増えた。

中学校 数学科「日常生活や将来との関わりで数学を利用しよう」の実践

中村第一中学校 寶 伸一

授業テーマ

日常生活に関する課題で数学を利用し、式、表、グラフから必要な情報を読み取り、様々な課題を発見・分析し、課題を表現処理し、自分の考えだけでなく、相手の考えや立場を理解しながら「課題対応能力」、「人間関係形成・社会形成能力」を育む授業

「どちらがお得？」や「将来を予想しよう」という問題を提示することで、数学を利用して、式、表、グラフから必要な情報を読み取り、様々な表現方法を適切に用いることで、多様な問題解決の手段について考えを深められる。

課題解決過程では、協働学習態勢を重視し、課題の分析、情報の収集、解決のための構想をグループで取り組ませる。このような経験は、「課題対応能力」「人間関係形成・社会形成能力」を育て、将来、仕事をする上で基礎となる課題解決やコミュニケーション・スキルの育成につながると考える。

1 本授業で目指す「課題対応能力」「人間関係形成・社会形成能力」

- 多様な他者の考えや立場を理解し自分の考えを正確に伝えることができる。
- 人との関わりの中で、新たな考えに触れたり、考えを深めたり、課題を解決できたり、がんばれたりすることを経験できるようにする。
- 他者と協力・協働して社会参画し、今後の社会を形成していくことができる。

2 「課題対応能力」「人間関係形成・社会形成能力」を伸ばすための手立て

- 今後、考えていかなければならない学習課題を設定することで学習意欲を強く喚起する。
- 1次関数とみなし、表・式・グラフから、必要な情報を読み取り、自分の考えをワークシートにまとめさせる。
- 表・式・グラフそれぞれの方法で表した任意の小グループになり、筋道を立てて説明したり、根拠に基づいて自分の考えを伝え合ったりする学びの場を確保する。

LED電球はお得？

3 実践の結果



日本では、2012年に「あかり未来計画」キャンペーンが開始され、白熱電球から省エネ効果の高いLED電球などへの切り替えが呼びかけられています。

家の白熱電球が切れたので、取り替えるには蛍光灯型電球かLED電球どちらがいいですか？

下の表は、一般的なLED電球、蛍光灯型電球、白熱電球の特徴をまとめたものです。何に注目すればいいですか？

電球	LED電球	蛍光灯型電球	白熱電球
特徴			
電球1個の値段	2300円	700円	160円
1日(10時間)の電気代	2.30円	2.76円	13.80円
電球の寿命	40000時間	6000時間	1000時間

- ・1個の値段
- ・電気代の違い
- ・1個の値段と電気代の合計(総費用)
- ・電球の寿命



- LED電球は経済的に得かを、電球1個の値段と1日の電気代と電球の寿命のデータから考察する。総費用の意味を理解し、総費用(y円)を使用時間(x時間)の1次関数とみなして、式化、グラフの読み取りをして損益分岐点を考える授業である。
- 課題解決過程では、協働学習を重視した授業を組み立てた。小グループになった結果、グラフをじっくり眺めたり、式化する生徒がいたり、課題の分析や情報の収集をするなど、解決のために積極的な場面が見られた。
- 授業の感想の中に「生活をしていく上で、比較をしてお得かどうかということを考えていくことが大切だとわかった」「今後の結果を予想したい時、1次関数を使って自分なりに予想できる」など前向きな意見があった。
- 今回の授業を終えて、授業で学習した内容を実際の生活や社会的な生活の問題と結びつけ、課題解決を図ることは「課題対応能力」や「人間関係形成・社会形成能力」を育てるには非常に重要だと改めて感じた。これからの時代、数学の生活化と生活の数学化を目指した授業の構築を図っていくことが求められると感じた。



家に未使用の白熱電球が残っていました。あなたならどうしますか？

私は、家にある白熱電球を使うわ。



僕は、LED電球を買って使うよ。理由は・・・。

中学校第1学年 英語科「スキット作り」の実践

中村第二中学校 五十嵐 元江

授業テーマ

「学び合い」によるアクティブ・ラーニングを実践し、生徒が主体となって、他者とかかわり合いながら英語の力を高め、「人間関係形成・社会形成能力」や「課題対応能力」を育む授業

普段の授業の中で、アクティブ・ラーニングを継続して実践していくことで、基礎的・汎用的能力を高め、キャリア教育につなげていきたいと考えた。

本授業は、Daily Scene 1「体調をたずねる」という単元を扱う。授業の始めに、Warm up としてUnit ごとの言語材料を用いた会話練習を行う。会話練習では、「相手に伝えたい・相手について知りたい」という気持ちを大切に、毎時間ペアを変えて行っている。その後、本時の基本表現を確認し、生徒同士でスキットを作成する。スキットの発表は次時に行う。他者との協働により英語への理解を深めるとともに、和英辞書を活用することで、自立した学習者を育てていきたい。

1 本授業で目指す「人間関係形成・社会形成能力」と「課題対応能力」

- ペアで活発に意見を出し合い、協力して活動に取り組むことができる。
- 分からない単語の調べ方、表現の仕方を身に付けることができる。
- 習得した英語の知識や技能を広く応用して、実際に使用することができるコミュニケーション能力を身に付けることができる。

2 「人間関係形成・社会形成能力」と「課題対応能力」を伸ばすための手立て

- ペアやグループの編成を工夫し、普段から教え合ったり、助け合ったりする雰囲気をつくる。
- ペアワークやグループワークでは、授業ごとに編成を替えることで、誰に対しても自分の意見をわかりやすく伝え、相手の意見を丁寧にきくことを意識させる。
- 生徒が分からない単語や表現に出会ったときは、答えを教えるのではなく、調べ方を教えるようにする。

3 実践の結果

- 1年生はまだ英語学習が浅く、知識も少ないが、生徒は教科書の基本表現を用いるとともに、オリジナリティを生かして、意欲的にスキット作成に取り組んでいた。和英辞書の使い方も覚え、自主的に活用する姿が見られた。また、次時のスキット発表では、教科書以外の表現を全体で共有することができ、表現の幅を広げることができた。
- 生徒の10年後、20年後を見据えたキャリア教育を考えた上で、普段の授業でアクティブ・ラーニングを取り入れることが一つの手段であると考えた。しかし、単にペアワークやグループワークを行うことがアクティブ・ラーニングとはいえない。生徒のコミュニケーション能力を高め、他者と協力して課題を解決する力を育てていくことや、生徒が目的に応じて自ら学べるような力を育てていくことが大切であると思った。そのことを意識して、今後も授業の活動内容を充実させていきたい。



Warm up での会話練習



スキット発表

中学校 技術・家庭科小・中交流事業 「ものづくりの技を教えよう」の実践

磯部中学校 千葉 正俊

授業テーマ

中学生が学習したことを生かし小学生と共に作業をすることによって、ものづくりの楽しさを体感し、経験したことを今後の生活に活用させるとともに、学校種を越えた学び合いから協調性や責任感をもたせることで「人間関係形成・社会形成能力」を育む授業

中学校技術・家庭科の教科の目標には、「従来の実践的・体験的な学習活動の内容を吟味し、仕事の楽しさや完成の喜びを味わわせるなど、充実感や達成感を実感させるとともに、学習内容と将来の職業の選択や生き方とのかかわりの理解にも触れる…」とあり、教科目標の実現を目指すことが、キャリア発達を促すことに深くつながるとされている。また、子どもたちの発達段階に応じた継続的・体系的なキャリア教育の充実を図るためには、学校種間の円滑な連携・接続を図ることも重要であるとされている。このことを踏まえ、本授業は、小・中の交流授業で共に製作実習を行うことにより、協調性や責任感を身につけ、さらによりよい人間関係を育成することにより「人間関係形成・社会形成能力」を身につけさせようとするものである。

1 本授業で目指す「人間関係形成・社会形成能力」

- 中学生が小学生に教えることで、自らの知識や技能の再認識をするとともに、自らの考えを正確に相手に伝えることができる。
- 小学生と中学生が共に作業をすることにより、協調性や責任感を身につけることができる。

2 「人間関係形成・社会形成能力」を伸ばすための手立て

- 実践的・体験的な学習活動を展開するために、指導過程の中に「学ぶ楽しさを実感する段階」や「自信を持つ段階」などの＜学びの段階＞を位置づけ、充実感や達成感を実感させる。
- 作業を振り返り検証する時間を確保することにより、コミュニケーション力や自他を理解する力を身につけさせる。
- 小中共通の学習規律の徹底と、小学校からの学習の関連性を実感させる。

3 実践の結果

- 中学校技術科教育と小学校との関連を把握することにより、系統的・継続的な指導を工夫することができた。
- 小学校との交流授業をとおして、中学校技術科教育に興味関心を持たせるとともに、見通しを持った指導ができるようになった。
- 交流授業では、中学生が小学生にのこぎり引きの技を教え、簡単な鍋敷きを製作することにより、自らの知識や技能の再認識ができ、今後の製作に自信が持てるようになった。
- 作業を振り返り検証する時間では、中学生が小学生にタブレット端末で撮影した映像を使って、正しいのこぎり引きの仕方を説明したり、自らが実演したりすることで、相手にわかりやすく説明するための手段や方法を考えながら教えることができた。
- 学びの段階を指導過程に位置づけ、作業の振り返りの時間を設定することにより、自らの学びを振り返り、次の学びにつなげるのに効果的であった。
- 数学、理科、保健体育、英語など他教科でも交流授業を行っているが、異なる学年の児童生徒たちとの交流から、よりよい人間関係を育成することができた。
- 教職員同士の交流から、継続的な学習指導や生徒指導ができるようになった。
- 学校間だけでなく、家庭や地域とも連携するなど、一人ひとりのキャリア形成に地域ぐるみで行うことが必要だと感じた。

